

第564回

I B C 番組審議会議事録

－議題番組－

I B C ニュースエコー

平成23年10月18日
㈱ I B C 岩手放送

第564回IBC番組審議会

1. 開催日時 平成23年10月18日(火) 午前11時
2. 開催場所 デジタルセンター3F Dホール
3. 委員の出席
- | | |
|---------|-------------|
| 委員総数 | 10名 |
| 出席委員 | 10名 |
| 出席委員の氏名 | |
| 委員長 | 田代 高章 |
| 副委員長 | 熊谷志衣子 |
| 委員 | 大村友貴美 小笠原 裕 |
| | 加藤 正幸 工藤 和彦 |
| | 小松 務 澤口たまみ |
| | 杉本 博 矢佐 俊幸 |
- 会社側出席
- | | |
|-------|-----------|
| 鎌田 英樹 | 代表取締役社長 |
| 川上 隆 | 常務取締役 |
| 熊谷 鉄郎 | 取締役放送本部長 |
| 成島 信夫 | 編成局長 |
| 武田 敏哉 | 報道局長 |
| 眞下 卓也 | 報道部長 |
| 角掛 勝志 | テレビ編成部副部長 |
- 事務局
- | | |
|-------|-----------|
| 相原 優一 | 番組審議会事務局長 |
| 小笠原 勉 | 事務局 |
4. 議 題 『IBCニュースエコー』

5. 議事の概要

<委員の主な発言>

- 取材に当たった記者の肉声でのレポート“記者たちの眼差し”は、それぞれの思いが伝わる内容で良かった。まだまだ復興は遠いという状況の中、やはり復興の槌音を聞きたいという思いがあります。現状の問題提起と未来への希望という二つの内容をバランスよく伝えていって欲しい。
- 10日の“記者たちの眼差し”は、NBC山田記者の長崎原爆被害と陸前高田の津波被害の共通点を、高田高校の平和大使をとおして紹介した特集で感動した。戦争でも天災でも親を亡くした子どもたちが生きていく勇気を見た気がする。
- “記者たちの眼差し”が印象に残っている。特に、車椅子の松本記者の取材では、同じ目線で取材することが大切だと感じた。私たちが仮設住宅がバリアフリーになっていないことに気がつかなかった。この取材でいい加減なスロープだったと知って、そういう方たちの身になって考えなければならないと、私自身も気づかされた内容だった。この企画をまとめて、特集番組にして放送してもいいのではないか。
- 体育の日で各地のイベントが紹介され、元気な子どもたちの笑顔がタイムリーに映し出されていた。競馬、bjリーグの話題など、ふるさとには負けずと頑張っている姿が印象的だった。高田での塩害対策としての菜の花の種蒔きは、復興に向けた来年の開花に大きな弾みとなることを期待したい。
- なかなかリアルタイムで見ることができないため、改めて録画して見ると本当に地域に密着している。絆いわて、ふるさとには負けず！と地域に即したキャッチフレーズを常に前面に押し出しながら、地域発信型であるところが地方局のニュース番組として好感が持てる。地域性も考慮しながらバランス感覚あふれるニュース構成にしている気がした。
- 浅見キャスターの落ち着いたソフトな語り口は好感が持てる。土村キャスターは少し堅いところが見られるが、二人の雰囲気も明るく爽やかな感じがしている。
- 幅広くいろんな分野の取材をしていると思うが、この時季芸術文化の話題が少ない印象を受けた。県内の小さなところでやっている展覧会や個展なども紹介してもらえば、作家の励みにもなるのではないか。
- 日々県内で起きた出来事を伝えるニュースは、いわば夕方の家庭の景色として日常に溶け込んでいるものなので、奇をてらうよりもいつものアナウンサーがいつもの笑顔で伝えてくれることが安心感をもたらしてくれるように思います。